

女性が中心となった商店街での三世代交流活動		面談年月 H18年2月
特定非営利活動法人 北町ボランティア活動センター NPO 北町大家族 前理事長 村上 孝子氏他		
(活動のフィールド) 東京都練馬区 東武練馬駅周辺	H3 ニュー北町商店街振興組合を設立。 H5 北町アートプラザ建設。 H12～ 子育て支援、高齢者いこいの場所、地域通貨など、ソフト面での地域との連携を実施。	
活動内容		
<p>旧川越街道沿いの商店街で、女性が主体となった子育て支援活動等を実施。取組のきっかけは、高齢者対策に4人の女性で取組んだこと。主婦の目線でのニーズ把握が出来ている。ある時期から、商店街振興組合にも女性の理事を設けた。</p> <p>平成5年には、商店街が共同利用出来るアートプラザを建設。</p> <p>平成12年には、工場跡地を利用した大型店舗が開店し、危機感を募らせたこともあり、商店街が地域に貢献する事業を展開。</p> <p>かるがも親子の家：地域の若い親子に遊び場と母親同士の情報交換の場を提供</p> <p>北町いこいの家：65歳以上の高齢者を対象に、手打ちうどん、太極拳、習字教室、カラオケ教室、民謡と唱歌、健康相談を実施</p> <p>地域通貨「ガウ」：ボランティアの方々への謝礼と商店街の事業に活用する</p>		
「都市再生の担い手」として事務局が注目した発言等		
<p>メンツにとらわれ、口ばかりの男性が多いのに対して、女性には成功させるために頑張る人も多い。だから、地域活動には女の人を入れないとダメ。</p> <p>後継者問題は上手くいっている。親世代が楽しそうに仕事をしているからだと思う。</p> <p>地域での活動は、何でも引き受ける、テーマは愛、ということをやっている。</p>		
(写真1...北町アートプラザ)	(写真2...かるがも親子の家)	(写真3...北町いこいの家)
		
(写真4...地域通貨ガウ)		
		

インタビュー概要

(活動内容についての説明)

活動の経緯

- ・ 商店街は旧川越街道沿いで、昭和 60 年頃が最盛期だったが、店同士の交流はあまり無かった。
- ・ 商店会を平成元年に設立。街路灯の整備とカラー舗装の整備に補助を受けるのが契機。隣接する北町商店会に入りたかったが、大所帯の商店会なので入るのを断られたため、自分たちで設立した。東武練馬駅に近い旧川越街道沿いには、北一商店街振興組合、きたまち商店街振興組合、ニュー北町商店街商店会の 3 つがある。
- ・ 商店街振興組合を平成 3 年に設立。組合費は一律 3,000 円。商店 50 件のうち 80% が加入している(ミニストップも加入)。この組織の福祉部門担当として女性が 4 人参加し、福祉・子育て関係のイベントを活発に企画した。それまで、ニュー北町商店街の店主同士の中での交流があまり無かったところに、お互いの交流が生まれた。
- ・ また、近隣の練馬駐屯地の自衛隊員の歓送迎会が出来る広いスペースの需要が判明したので、商店街会館(北町アートプラザ)を平成 5 年に建設。1 階が貸店舗(約 180 m²)でミニストップが入居、2 階が北町アートプラザ(約 180 m²)で、舞台付の広間がある。当施設の建設費の一部は助成された。併設した駐車場の料金収入等を建設費の返済に充てた。
- ・ 工場跡地を利用した大型店舗が平成 12 年に開店し、危機感を募らせた。当時、DV や高齢者問題が取り上げられており、問題意識を持っていた。アートプラザを利用して、かるがも親子の家(子育て支援)や北町いこいの家(高齢者集いの場所)を行ったり、地域通貨ガウを流通させたりして活性化を目指している。

地域との関係について

- ・ 商店会が設立された頃は、商店街のメンバーが 40 代、50 代が中心で若かったから上手くいった。
- ・ 北町商店街とは、阿波踊り大会を連携して開催。ニュー北町商店街の地域通貨ガウも、競合しない店で協力してもらっている。
- ・ 地元町会(北町 2 丁目町会)とは、強い連携はしていない。町会は町会長さんの人柄次第。防災訓練の参加者にガウを配布してもらったりしているが。

商店街について

- ・ 後継者問題は上手くいっている。親世代が楽しそうに仕事をしているからだと思う。仲間意識も大切にしている。ただし、店を取り仕切っていた夫を亡くした場合は、引き継ぐ相手がいないこともある。
- ・ 店舗兼住宅では、店舗を通らないと外出出来ない場合もある。その場合は、仕方なく店舗を営んでいる人もいる。
- ・ この商店街の店舗経営者で、商店街内に住んでいる割合は 50% ぐらい。しかし、近くのマンションに住むなどして、商店街の一員である意識が高い。
- ・ 商店街でも若い世代は仕事の中心だから、商店街組織としての活動は難しい。
- ・ マンションが増えており、マンション住民との交流が課題。我が町という感覚を、どうやったら持ってもらえるか。そこで、子育てや安心・安全などのテーマを導入。
- ・ 今まで失敗した事業もある。ゴミを少なくするためゴミ廃棄の設備を作ったが、機械の音がうるさく、ルールどおりにゴミを出さない人もいて、上手くいかなかった。生鮮食品の個人宅配も品質に差があるためクレームが多く、上手くいかなかった。
- ・ 商店街の人は接客業を行っているので、人に喜んでもらうことが好きな人が多い。そのため、福祉に向いていると思う。
- ・ 地域通貨ガウは、商店街を活性化させることが目的。

NPO 法人 北町大家族について

- ・ NPO に対しては、練馬区から助成金などを貰っていない。商店街が練馬区・板橋区の区界に近く、練馬区からお金を貰うと板橋区の方が利用出来ない制約が出てしまう。
- ・ NPO の収入源として、平成 14 年度から 3 年間、子ども未来財団から 500 万円/年の助成を貰っていた。平成 17 年度からは貰えなくなるので、財政が厳しくなる。
- ・ 活動はほとんどボランティアなので人件費はあまりかかっていない。

(質 疑)

:村上氏 :事務局

女性による取組のきっかけは？

取組のきっかけは、高齢者対策に 4 人の女性で取組んだこと。主婦の目線でのニーズ把握が出来ている。ある時期から、商店街振興組合にも女性の理事を設けた。

女性による取組のメリットは？

女性は話好きなので、話が早く広まり助けてくれる人もすぐ見つけられる。

メンツにとらわれ、口ばかりの男性が多いのに対して、女性には成功させるために頑張る人も多い。だから、地域活動には女の人を入れないとダメ。

取組のコツは？

私は、良いことをやる時は「絶対うまくいくぞ」と思う。そして、それを皆に言って歩く。そうすると、引っ込みがつかなくなるし、どこかで耳にした人から、応援してもらえる。

アートプラザについて

アートプラザを活用して子育て支援を行っている。子育て支援にはマンションの方が来てくれるし、来街者が増えるメリットもあった。

他にもイベントを行っているのか？

1シーズン1回のフリーマーケットを行っている。子ども服が安く手に入るので好評。

3 世代交流のうどん打ちもしている。高齢者と子育ての支援を行っている施設だからスムーズに出来る。

高齢者の健康増進・転倒防止のため、太極拳・ストレッチ・筋肉トレーニングを行っている。

当初、高齢者担当は嫌だと思ったが、色々アイデアが出てきて面白いと思う。

活動の広がりが生まれるのか？

こうした活動をしていると、様々な相談が寄せられるようになった。それに対して、地域の中でボランティアを探して対応することで、さらに人の輪が広がっている。北町大家族に行けば、何でも引き受ける、テーマは愛、ということをやっている。

私は、良いことをやる時は「絶対うまくいくぞ」と思う。そして、それを皆に言って歩く。そうすると、引っ込みがつかなくなるし、どこかで耳にした人から、応援してもらえる。フラダンス教室について、色々な所で話していたら、先日もフラダンスの先生を、偶然、知り合いに紹介してもらえた。

行政の対応について望むことは？

行政に助成を求める際の手続き作成等が難しい。書類作成等が、素人にも出来るようにして頂ければありがたい。

行政は、どうしても細かいところまで手が届かない。予算制度の縛りもあるし、公平性も担保しないといけないので、仕方が無いと思うが。